

地理歴史科教育論



第9-10講 教師の多様な授業デザイン

—教師は様々な制約の下でどのように教えているか—



Theoretical Curriculum

原理・理念としての地理歴史カリキュラム

第2講～第6講



Intended (Formal) Curriculum

制度・政策としての地理歴史カリキュラム

第7講～第8講



Implemented (Enacted) Curriculum

実行・実践としての地理歴史カリキュラム

第9講～第10講



本日のテーマ1

教師は受け身の
存在なのか？？？



本日のテーマ2

民主的な国家・社会の
形成者を育成するために
教師はどんな戦略をとるか



演習課題1

教師の意思決定を追体験する

- (1) あなたならば、この教科書を3-5時間でどう教えるか？ → 単元デザインをめぐるグループ内の揉め事(論点争点 A vs B)を報告しよう
- (2) H市の中学校の教師は、この教科書をどう教えたか？ → TAとともに、論文を読み解こう
- (3) なぜ教え方に、(私との間で、教師との間で)違いが生じたのだろうか。理由をチャートを使って説明しよう

考察・分析ーなぜそうなったのかー

学習指導要領&シラバス&教科書

教師の教科観

教養的地理理解教育

どうなっているかの習得
過去・他所に関する基礎基本の事実
をいかに共通に習得させるか

政治的社会構想教育

どうするべきかの追求
問題を解決し、意思決定するための
判断基準や行動力をいかに育てるか

科学的地域分析・概念探求教育

なぜ・どうして・なにの探求
概念を探求したり、活用させる科学的
な説明力をいかに成長させるか

子どもの実態・関心

学校経営の理念

地域の期待・要望

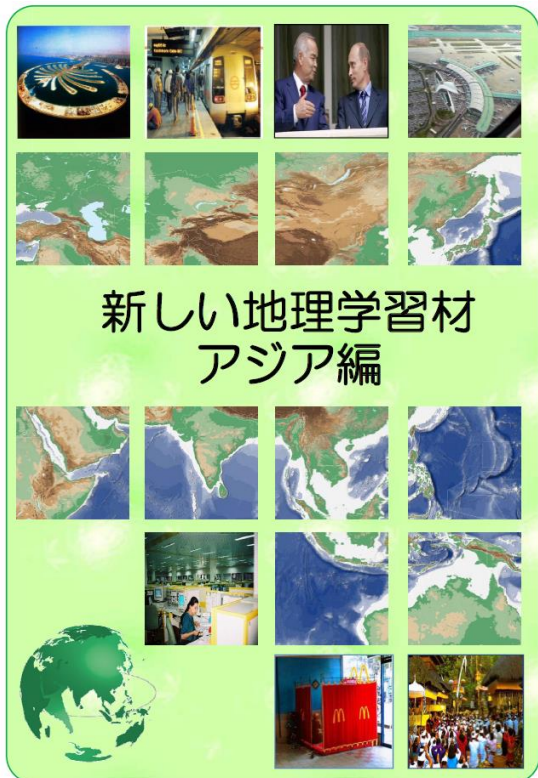
教師個人の研修

教育政策

入試・受験の制度

B・D・F教師の「アジア」の実践(3-5時間)

II H市での実験・調査ーどんなことをしたのかー



新しい地理学習材
アジア編

資源開発と民主主義からみた西アジア
 西アジアの経済と政治について知ろう
西アジアの経済と政治を捉える概念をつくろう
概念を通して西アジアの課題を考えよう

- 

人・モノの結びつきからみた朝鮮半島
 韓国の地理と経済を知ろう
 韓国の地理と経済を捉える概念をつくろう
 概念を活用して朝鮮半島の課題を考えよう
- 

国土の広がりと国民統合からみた中国
 中国の文化と政治を知ろう
 中国の文化と政治を捉える概念をつくろう
 概念を活用して中国の課題を考えよう
- 

多様性と地域統合からみた東南アジア
 東南アジアの歴史と文化を知ろう
 東南アジアの歴史と文化を捉える概念をつくろう
 概念を活用して東南アジアの課題を考えよう
- 

都市・農村と生活環境からみた南アジア
 インドの地理と社会を知ろう
 インドの地理と社会を捉える概念をつくろう
 概念を活用してインドの課題を考えよう
- 

資源開発と民主主義からみた西アジア
 西アジアの経済と政治について知ろう
 西アジアの経済と政治を捉える概念をつくろう
 概念を通して西アジアの課題を考えよう
- 

国家の位置と安全保障からみた中央アジア
 中央アジアの国際関係を知ろう
 中央アジアの国際関係を捉える概念をつくろう
 概念を活用して中央アジアの課題を考えよう



(第1見開き) 具体的な事実の世界

→ **西アジア**

アジア州 資源開発と民主主義からみた西アジア
—西アジアの経済と政治について知ろう—

→ **ねらい**
「資源開発と民主主義」に関して、地域(西アジア)の具体的な事実を知る。

→ **学習の見取り図**



▲西アジア

→ **学習課題**

- 西アジアの人々は、どのような環境で生活しているのだろうか?
- 湾岸諸国の政治・経済には、どのような特色がみられるだろうか?

A 西アジアの自然と生活



▲砂漠の遊牧民ベドウィン

B 湾岸諸国の経済と政治



▲ビルが立ち並ぶドバイ市街と王族所有のキングダムセンター

西アジアは、長い乾季と短い雨季をもつ乾燥気候が卓越しており、砂漠とステップが広がっています。人々は山麓のステップに地下水路などの灌漑施設を築いて、小麦やブドウを栽培したり、砂漠で遊牧をすることで暮らしを立ててきました。今日では石油の加工・輸出が、主たる産業となっています。

西アジアはイスラーム発祥の地です。サウジアラビアの聖地メッカには、世界から多くの巡礼者が訪れます。今日でも西アジアの人々の生活・習慣、社会のしくみには、イスラームの思想が深く浸透しています。

1900年代のはじめ、ペルシヤ湾沿岸のサウジアラビアやイラクで石油が発見されると、西アジアに向けられる世界の眼差しは変わりました。世界の石油埋蔵量の約2/3が眠るこの地域には、採掘の技術や販売ルートを握る欧米諸国が進出し、石油の利権を支配してきました。しかし、1960年代から産油国は自国資源に対する権利を主張して石油産業の国有化を進めます。その結果、産油国には巨額の収入がもたらされました。

湾岸諸国には、国民の政治参加を認めない国が少なくありません。例えば、世界最大の石油輸出国のサウジアラビアは、王族が統治する君主制国家(王制)です。ここでは、王族が石油収入を独占するとともに、憲法や議会をつくらず、王族による統治を続けてきました。また、表現の自由や女性の権利なども制限されています。近年では、国民の政治参加を求める民主化の動きもみられます。

▼世界最大産油量のガワール油田(サウジアラビア) ▼イスラームの聖地メッカと巡礼者




産出量	オーストラリア	ロシア	アメリカ	イラン	イラク	サウジアラビア	その他
2008年	47.3%	13.4%	10.7%	10.7%	9.7%	9.7%	20.9%

産出量	サウジアラビア	ロシア	アメリカ	イラン	イラク	その他
2008年	16.8%	11.6%	6.1%	6.1%	5.1%	4.9%

産油国	アメリカ	日本	中国	韓国	その他
2006年	24.8%	9.0%	6.6%	6.6%	5.1%

▲世界の原油の生産と移動

原油	サウジアラビア	アラブ首長国	イラン	その他
2008年	29.0%	24.3%	11.6%	35.1%

▲日本の原油の輸入先と輸入依存率

99.6%



▲サウジアラビアのイスラームの女性

I 言葉の意味を調べる

II 事実を比較・分類・概括する

▼西アジアの政治体制(2005年)

君主制(赤)	サウジアラビア、クウェート、カタール、オマーン、ヨルダン、アラブ首長国連邦(UAE)
個人支配(黄)	イエメン、シリア
一党支配(橙)	イラン
共和制(青)	トルコ、レバノン、イスラエル(イラク)

III 私たちの生活と結びつける

- 下の用語の意味を確かめなさい。
灌漑施設、イスラーム、巡礼、資源ナショナリズム、O(A)PEC、国際石油資本、君主制国家、王族、表現の自由、民主化
 - 下の表を完成させて、世界における湾岸諸国の位置づけと、日本と湾岸諸国との関係を説明しよう。
- | 国名 | 生産量(%) | 輸出量(%) | 日本の依存率(%) |
|---------|--------|--------|-----------|
| サウジアラビア | | | |
| UAE | | | |
| イラン | | | |
- 西アジアの政治体制を分類し、白地図で色分けをすることで、全体的な傾向を述べなさい。
 - インターネットで調べて下の年表を完成させ、石油から見た西アジアの動きをまとめよう。
- | | |
|-------|---|
| 1960年 | 国際石油資本に対抗して産油国が()を結成 |
| 1968年 | アラブ産油国は()を結成 |
| 1973年 | ()戦争が発生。アラブの石油産出国による石油戦略のために、先進工業国で()が起こる |
- 石油は、ガolinだけでなく、私たちのくらしの至るところで使われています。私たちの身近にある石油製品を探してみよう。

(第2見開き) 抽象的な理論の世界

→ **西アジア**

アジア州 資源開発と民主主義からみた西アジア
—西アジアの経済と政治を捉える概念をつくろう—

→ **ねらい**
「資源開発と民主主義」を説明する一般的な理論を知る。

→ **学習課題**
なぜ産油国では、非民主的な国家が存続しうるのだろうか？ 変化の兆しはないのか？

→ **学習の見取り図**

<石油価格：高い場合>

政府(王族) <石油国産業(国有化)> 莫大な石油収入による富家財閥の形成

納税 政府参加 福祉サービス 増進 経済・社会 改革の要求

国民 <中小規模の民間企業> 雇工を中心だが、非石油国産業の育成は未発達

<石油価格：低い場合>

政府(王族) 財政赤字 <石油国産業(国有化)> 石油収入の減少により富家財閥は不足

納税の増徴 経済・社会 改革の要求 雇用の減少 国民 <中小規模の民間企業> 雇用の減少により富家財閥の没落

▲産油国の社会変動モデル

A 石油依存社会のしくみ

産油国の国民は、政治参加できないことに不満はないのだろうか？

B 石油依存社会の課題

▲エネルギー資源の可採年数

西アジアの湾岸諸国には、現在でも王族が支配する君主制(王制)の国家が多くあります。これらの国々では、石油資源を国家が独占して生産・輸出することで莫大な石油収入を得て財政を潤してきました。一方、国民には教育・医療などの福祉サービスを無償で提供し、産業にも補助金を投入して保護するなど、石油収入で得た富は国民に分配されてきました。もちろん、納税の義務もありません。国民は課税されない代わりに、議会に代表を送って、税金の使い方を主張することはできません。また、現行の政治体制(君主制)の価値を訴えるためにも、国家は、長期的な見直しをもって産業を育てることよりも、当面の国民生活を満足させることを優先させる傾向にあります。

西アジアの湾岸諸国を支えている石油価格は、必ずしも安定していません。国際社会のさまざまな要因で、石油価格は高騰と暴落を繰り返してきました。石油価格が低下すると、おのずと国の財政は厳しくなり、福祉サービスの質を下げたり、課税を検討せざるを得ません。また福祉の充実した湾岸諸国では、急激に人口が増加してはいますが、国内産業が未発達なために、雇用の受け皿がありません。これらの不満から、国民は「代表なくして課税なし」を盾に政治参加を求め、社会の改革を迫る動きも見られます。有限な天然資源＝石油に依存する社会は、その国のあり方をめぐって岐路に立っています。

▼主な国の政府収入の内訳

国	税金	社会保険料	その他の収入
日本 (2006年)	51.7%	31.0%	17.3%
アメリカ (2008年)	34.0%	37.8%	27.2%
中国 (2006年)	98.0%	0.0%	11.8%
アラブ 湾岸国連邦 (1999年)	17.0%	0.0%	82.3%
クウェート (2008年)	-1.8%	0.0%	98.1%
バーレーン (2006年)	14.4%	0.0%	81.2%

▼石油価格の推移

2008年7月11日 歴史的に 147.27ドルを記録

2003年3月 米軍イラク侵襲

1990年8月 イラク軍クウェート侵襲

1973年10月 第2次オイルショック 第4次中東戦争

1979年11月 第1次オイルショック イラン革命

▲サウジアラビアのアブドゥラ国王とブッシュ前アメリカ大統領

西アジアの産油国における「その他の収入」は、何を意味するのだろうか？

I 言葉の意味を調べる

II 事実を説明する

▼湾岸諸国の石油収入の変化

国名	1972	1980	1986	1998
クウェート	85	288	71	64
サウジアラビア	145	1,627	214	236
UAE	33	209	68	75

(単位:億ドル)

III 理論を応用する

- 下の用語の意味を確かめなさい。
富の分配、福祉サービス、代表なくして課税なし、石油産業、オイル・ショック。
 - 表を完成させ、各国の国家収入の違いと、その理由を説明しなさい。
- | 国名 | 1位 | 2位 | 3位 |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| UAE | [() %] | [() %] | [() %] |
| クウェート | [() %] | [() %] | [() %] |
| 日本 | [() %] | [() %] | [() %] |
- 「湾岸諸国の石油収入の変化」と「石油価格の推移」は、どういう関係にあるか。下のカードを完成させて説明しよう。
- 石油収入は()年がピーク。サウジアラビアの場合、1998年の石油収入は、1980年のそれの()程度にまで減少。
- 1980年代前半は、()のために石油価格が高騰していた。1990年代後半は、石油価格は低迷していた。
- 国家財政を石油収入に依存すると、()なメリットと、()なデメリットが予想される。
- ナウル共和国の歴史を調べ、同国は①どのように繁栄し、②どのように苦悩してきたか、についてレポートにまとめよう。

(第3見開き) 現実的な問題の世界

→ 西アジア

アジア州 資源開発と民主主義からみた西アジア

—概念を通して西アジアの課題を考えよう—

→ ねらい

一般的な理論を通して、「資源開発と民主主義」に関する地域(西アジア)の課題を知る

→ 学習課題

- ドバイはどのようにして石油依存経済から転換しようとしているか?
- なぜ湾岸諸国では経済改革や民主化の要求が高まっているのだろうか?

→ 学習の見取り図



▲ドバイの高級ホテル「ブルジュ・アル・アラブ」

A 脱石油化を目指すドバイ



▲ドバイのリゾート開発「パーム・ジュメイラ」

B 変革をめぐる揺れる湾岸諸国

▼湾岸諸国の人口構成(1997年)

国名	自国民	外国民	計
クウェート	74	141	212
サウジアラビア	1,250	600	1,950
UAE	66	204	270
湾岸諸国	1,708	1,067	2,775

(単位:万人)

西アジアの国々を紹介するTV番組を見たんだけど、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイは、町がテーマパークみたいだったの。どうしてこんな町並みになったのかしら?

ドバイにも石油収入はありますが、それほど多くありません。だからこそ、石油収入に頼らない産業の育成を目指しています。例えば、国際的な大型港湾を整備して、世界の貿易・物流の拠点になることを目指していますよ。

なるほど。番組では、ドバイは高級ホテルやリゾートの開発も進めているって、紹介されていたよ。ドバイはどんな産業を興そうとしているのかな?

番組を見ていると、インド系や東南アジア系の人もたくさん写っていたわ。みんな観光で来ているのかな?

多くは働きに来ている出稼ぎ労働者です。湾岸諸国では人口増加が著しいため、働く場が不足します。そのため、出稼ぎ労働者や今の王制に対する国民の不満は、高まっています。

ドバイと同じように、サウジアラビアなどの湾岸諸国でも、さまざまな改革が進んでいくんだろうか? 気になるなあ。

▼サウジアラビアの人口と失業率の変遷

▼ドバイの国際港湾・ジュベル・アリ港

年	石油:非石油
1990	35:65
1995	18:82
2000	10:90

▲ドバイのGDPに占める石油と非石油産業の割合

▲サウジアラビアの民主化の動き

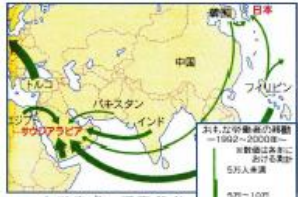
「サウジで地方選挙へ 民主化要求に譲歩」

【ワシントン通信】サウジアラビアのムハンマド6世国王は、地方選挙の導入をめぐり、民主化要求に一定の譲歩を示した。国王は、地方選挙の導入をめぐり、民主化要求に一定の譲歩を示した。国王は、地方選挙の導入をめぐり、民主化要求に一定の譲歩を示した。

I 言葉の意味を調べる

1. 地図に、下の地名の位置を書き込みなさい。また、下の用語の意味を確かめなさい。
地名: アラブ首長国(UAE)、ドバイ、アブダビ
用語: 出稼ぎ労働者、リゾート開発、フリーゾーン

II 原因・影響を推論する



2. アラブ首長国連邦(UAE)を構成する首長国:ドバイは、別の首長国:アブダビとは異なり、脱石油化をめざしています。下の表を読み、その理由を説明しよう。

首長国	人口(万人)	GDP(億ドル)	GDPに占める石油部門の割合
アブダビ	126.6	5,858.2	43.7%
ドバイ	95.2	2,287.7	12.2%

3. 下の図を完成させ、近年、サウジアラビアで国民の政治参加の要求が高まっている理由を説明しよう。



III 予想・判断を主張する

4. 10年後、サウジアラビアの政治参加はどの程度実現しているだろうか。根拠を示して予想を述べよう。

III H市での実験の結果ーどんな実践が行われたかー





資源開発と民主主義からみた西アジア


西アジアの経済と政治について知ろう


西アジアの経済と政治を捉える概念をつくろう


概念を通して西アジアの課題を考えよう


 **人・モノの結びつきからみた朝鮮半島**
韓国の地理と経済を知ろう
韓国の地理と経済を捉える概念をつくろう
概念を活用して朝鮮半島の課題を考えよう

 **国土の広がりと国民統合からみた中国**
中国の文化と政治を知ろう
中国の文化と政治を捉える概念をつくろう
概念を活用して中国の課題を考えよう

 **多様性と地域統合からみた東南アジア**
東南アジアの歴史と文化を知ろう
東南アジアの歴史と文化を捉える概念をつくろう
概念を活用して東南アジアの課題を考えよう

 **都市・農村と生活環境からみた南アジア**
インドの地理と社会を知ろう
インドの地理と社会を捉える概念をつくろう
概念を活用してインドの課題を考えよう

 **資源開発と民主主義からみた西アジア**
西アジアの経済と政治について知ろう
西アジアの経済と政治を捉える概念をつくろう
概念を通して西アジアの課題を考えよう

 **国家の位置と安全保障からみた中央アジア**
中央アジアの国際関係を知ろう
中央アジアの国際関係を捉える概念をつくろう
概念を活用して中央アジアの課題を考えよう

B教師ってどんな人

【B教師について】

- ・2年目（非常勤講師）
- ・日本史学専攻

【勤務校】

- ・地域の中核的な研究実験校
- ・社会科担当2名の連携（with現職経験15年目教諭）

【授業スタイル】

- ・資料を読み取らせながら、确实・堅実に

【授業後のインタビュー】

- ・地域的な傾向性とその理由を説明させたい。

D教師ってどんな人

【D教師について】

- ・17年目
- ・西洋史学専攻

【勤務校】

- ・郊外住宅団地に隣接する中規模校
- ・家庭学習の充実・学習規律の確立⇒基礎学力の向上

【授業スタイル】

- ・解説型中心(要所で発問や班学習)

【授業後のインタビュー】

- ・将来子どもが「選挙に行って政治参加できる」ように「この国はどうあるべきか」を考えさせたい。

F教師ってどんな人？

【F教師について】

- ・30年目
- ・地理学専攻

【勤務校】

- ・都心に隣接する中規模校
- ・学力格差の是正と学習意欲の向上
- ・共同学習への取り組み

【授業スタイル】

- ・子ども主導（教師は議論のファシリテーターとして）

【授業後のインタビュー】

- ・社会の課題を自ら発見し、それを共同的に解決する力を身につけさせたい。



演習課題2

- (3)-1 BDFの教師の実践は、**なぜ違うのだろう**
- ・重視されている**一般的な教科目標**とは
 - ・考慮されている**個別のコンテキスト**とは
- 3人の教師の意思決定メカニズムを、チャートを使って説明しよう。
- (3)-2 BDFいずれかの教師に注目して
- ・重視されている教科目標の**相対的な位置に、😊を配置**しよう
 - ・考慮されているコンテキストを、**矢印と太さと文章で解説**しよう
- 完成版はTAが写真で記録をとります

●班 ●教師のチャートです

学習指導要領 & シラバス & 教科書

教師の教科観

ポストイット

教養的地理理解教育

どうなっているかの習得
過去・他所に関する基礎基本の
をいかに共通に習得させるか

政治的社会構想教育

どうするべきかの追求
問題を解決・意思決定する
判断基準いかに構築させ

ポストイット

科学的・地域分析・概念探求教育

なぜ・どうして・なにの探求
概念を探求したり、活用させる科学的
な説明力をいかに成長させるか

ポストイット

ポストイット

子どもの実態・関心

学校経営の理念

地域の期待・要望

教師個人の研修

教育政策

入試・受験の制度

●教師の「アジア」の実践(3-5時間)

IV 教師のゲートキーピングとは

1. どんな教師も、**制度・政策としてのカリキュラム**を、そのまま**実行・実践カリキュラム**に移しはしない
2. 民主的國家の教師には、**主体的にカリキュラムをデザインする**＝**実行・実践カリキュラム**をつくる能力が期待されているし、現に行っている
3. 教師は、**①原理的目標と②制度的目標、③個人の教科観や学校のコンテキストを信念**に基づいて巧みに擦り合わせてカリキュラム**実行・実践**している
...①②③の組み合わせは多様

**学習指導要領体制下でのベターな授業を求めて
悩みつつしたたかに意思決定している教師**

Theoretical Curriculum

原理・理念としての地理歴史カリキュラム

第2講～第6講

Intended (Formal) Curriculum

制度・政策としての地理歴史カリキュラム

第7講～第8講

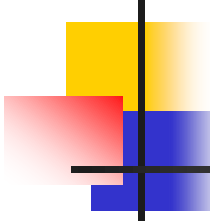
Implemented (Enacted) Curriculum

実行・実践としての地理歴史カリキュラム

第9講～第10講

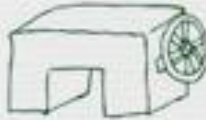
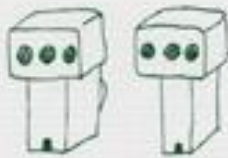


B/D/F

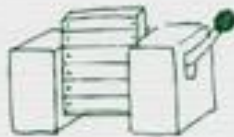


ゲートキーピング

主体的な
学習者を生じ
社会科カリキュラムに向けて



スティーブン・
J・ソートン
Stephen J. Barton



教師の

Teaching Social Studies That Matters:
Curriculum for active learning

渡部 竜也 山田 秀和
田中 伸 植田 諭 (訳)

春秋社

→“AimsTalk”ができる教師